気がつくと私は
座敷牢に縛られていた

下着や胸が丸見えで
隠せない状態…

ッ！

私は羞恥と危機感を
怒鳴る事で誤魔化した

ちょっと！
あんたッ！
これ解いてッ！

目の前には
ニヤついた男が1人

男は答えない
それどころか

ピク

イヤらしく
私のおしりを
まさぐってきた

もにゅ

もにゅ

いやッ
触らないでッ
くッ！

やめ…てッ
気持ち悪いッ

ぶるぶる

もにゅ

もにゅ

手足を縛られていて
全く抵抗ができない

このッ！
んッ！

いつまでも
男の手から
逃れられず
嫌悪感が続く

もにゅ

もにゅ

ついに男の指が
私の一番敏感な部分を
なぞり始めた

ピク

ﾌｯ

やはり目的は
『それ』なのだ

『する』つもりだ
冗談じゃない…

ぶるぶる

…ッ！

このままだと
確実に犯されるだろう…
だが縛りは固く、もがいても
緩む気配は全くない

スリスリ

そして男の指が
一番イヤな部分を
こね始めた

ゾクゾク

うッッ

芯を刺激されて強引に
性感を引き出される

その部分を
ずらしたくて
腰を捻る…が

ぶるぶる

くッ……

男の指は
その1点を
執拗に
追ってくる

くにゅ

くにゅ

逃げられない…
一番敏感な
『そこ』をずっと
嬲られ続ける…

ゾクゾク

う…あ…

指の腹でこねくられ
不本意な快感に身を
よじるしか出来ない

くにゅ♥

くにゅ♥

予感がした…
され続ければ
『この男の前で絶頂する』

ガクガク

くぅ…ん…

そんな醜態は絶対にイヤだ
なんとか我慢したかった…

くにゅ♥

くにゅ♥

だけどそんな私に
対応するかのように
男は刺激を強めた

ゾクゾク

う…ッあ♥
くッううう♥

下着の上から
指4本の強烈な摩擦
一気に性感が膨れ上がる

シュリシュリ

いともたやすく
望まぬ絶頂が
すぐそこまで迫った

ガクガク

イッイヤッ♥
ちょッ♥それッ
待ッ♥ダメェッ♥

シュリシュリ

シュリシュリ♥

ビクッ

イカされ

絶頂による
隠しきれない
身体の震え…

羞恥と屈辱で
感情が煮えたぎる

ガクガク

ビクン

ビクン

ﾝｯ♥ﾝｯ♥

すぐに男の指が
まだ敏感な私の中へ
差し込まれる

ピク

ん…ッ♥

快楽を帯びた
激しい異物感…

男はゆっくりと
私の中をこね始める

ゾクゾク

シッ♥ッッ♥

指が動くたび
意に反して力が入り
腰が浮いてしまう

くにくに

激しくされれば
あッという間にまた
イカされてしまうだろう…

ぶるぶる

や…やめ
てぇ
う…♥

一度イってしまうと
敏感になり…
もう我慢は無理なのだ…

男は依然
ニヤつきながら
ゆっくりと
中で円を描く

ゾクゾク

ふ～♥ふ～♥

あくまでゆっくりだ…
それでも徐々に快楽は蓄積され
追い詰められていく…

その気になればいつでも
イカされるような
危うい状態が続く

ぶるぶる

く…♥う…♥

屈辱だった…
身体の手綱を握り
続けられている気分だ

くにくに

それから十数分

男は私を
絶頂させる事はなく
ただただ私の内側を
焦らし…弄んだ

指の速度は緩慢なまま…
それでも
何度か絶頂しかけたが…

ぶるぶる

うう…くうう…♥
あうぅッ♥

博麗の巫女としての
プライドが
それを堪えさせた

だが…
少しずつ…少しずつ…
膨らんだ快感が
許容量を越え
破裂しようとしている

んんん…♥
ふうう♥

ガクガク

私の我慢は
限界を迎えようと
していた

爆ぜる一歩手前の
感覚を永く永く
味わい…

ゾクゾク

イヤ…♥イヤぁ…
あああぁぁッ♥

ついに…
その瞬間は来た

にに

あぁぁぁぁぁッ♥

ビクビクッ

今まで感じた事がない
未知の絶頂感

くにに

ずっと我慢した
せいだろうか…
鈍く重くそして
長い絶頂だった

ううううッ
ふうううッ
♥♥

ガクガク

ビクビク

あ…あぁ…♥
あぁぁぁ～♥♥

ぶるぶる

なかなか
収まらない…

鼓動と同時に
快感が全身を
脈打ち続ける

ビクン

ビクン

ようやく
その波が引いた時

『それ』は私に
狙いを定めていた

ガクガク

うう…♥
あ…♥

身体は依然
限界付近まで
昂っている

ぶるぶる

い…イヤ…ッ♥

こんな状態で
犯されれば
どうなってしまうか
分からない

ずぷ♥

博麗の巫女としての
プライド…自負と尊厳

それが砕かれる
予感がして…私は
動揺を隠せなかった

To be continued

男のそれは
入口まで
迫っていた

ピク!

やめ!
あんたッ!
許さないから
ね!

固く縛りつけられいて
拒むことは出来ない

ゆっくりと
押し広げて
入ってくる

ぶるぶる

ちょっと
やだッ！
ううッ！

絶頂直後は敏感で
ぬるりとした挿入に
激しい快感が走る

ビクッ

ビクッ

うぐッ♥

突然
奥まで貫かれ…
私は浅く絶頂した

すぢっ

ゾクゾク

…あぁ…あぁ

意に反して
膣内が収縮し
男のモノを
しっかりと咥え込む

ダ…メ…
やめてッ
うッ♥

私の言葉は無視され
男は抽挿を始めた

すちゅ
すちゅ

あッ♥
んんッ♥
ううッ♥

ガクガク

中を突かれるたび
情けない
声が出て
しまう

すりすり

快感が突き抜けて
頭を打ち続ける

ゾクゾク

〜〜ッ♥
んんッ♥

され続ければ
『簡単にまた絶頂する』と
確信できてしまう程の快楽…

ずちゅ
ずちゅ

嫌なのに
私の膣内は
悦びによって
相手を締めつけた

ぶるぶる

くぅ…ッ♥
んんんッ♥
～～ッ♥

不本意な性交だ…
しかし私の性器は
女として完全に
機能してしまう

ずちゅ

ビクッ

んあ…ッ♥

暫くして…
特に強い快感により
私の身体が跳ねた

すりっ

男はにやりと笑う
私の一番感じる
『当たり』の角度と理解し

ズクズク

やめッ♥
あッ♥あッ♥

的確に…
そこを繰り返し
責め立ててきた

すちゃ
すちゃ

縛られていて
固定された身体は
その角度から
一切逃れられない

ガクガク

～ッ♥ッ♥
くうぅッ♥

執拗に『当たり』を突かれ
私はすぐに追い詰められた

ずちゅ
ずちゅ

早くも絶頂寸前だ
指だけでなく
この男の性器にまで
屈してしまう

ズクズク

あッ♥あッ♥あッ♥
あぁぁぁぁッ♥

嫌なのに次の瞬間
限界に達する……
悔しさと快楽で
頭が溢れ返った

すぢゅ
ぢゅ


ビクッ
ビクッ
ﾚﾚﾚﾚﾚ
ﾚ
♥
♥

ガクガク

うぅ…うぅ…

屈辱的な絶頂…
卑劣に縛られ
犯されて…
本当に悔しいのに
私は耐えられない

あっ♥
やめッ♥
うぅッ♥

ピク

男はさらに
抽挿を続ける

すぅ
ちゅ

絶頂直後…
ざらついた快感に
私は悶絶した

ゾクゾク

ま…まだッ♥
んんッ♥
いやぁッ♥

堪らずもがく…
だが逃げられない
縄が無情に
私を縛りつけている

ずちゅ

過剰な快楽に私はただ身悶えるしかなかった

ガクガク

待っ♥いやッ♥ううッ♥

男は満足げに笑いペースを早める

ずちゅずちゅ

あッ♥あッ♥
んあああッ♥
♥♥♥あッ♥
ゾクゾク

激しい連打…
凶悪な性感が
私に叩きつけられる

すりすり

その熾烈な快感に
本能が予感する

この男は
私の中に射精する
つもりなのだ

ガクガク

ちょッ♥
あぁぁぁッ♥

すちゅ
すちゅ

拒否したくて
堪らない…だが

ぶるぶる

ッ♥ッ♥
～～～～ッ♥

快感に負けた性器は
激しく収縮し
射精を促している

すぢゅ
すぢゅ

そろそろなのだろう
男のモノが
ビクビクと律動する

うぁッ♥
くぅうッ♥

出される…
出されてしまう
そして私の絶頂も
すでに目前だった

ずちゅ

私は『その』直前
口で精一杯抵抗し

ぶるぶる

出したらッ♥
絶対ッ♥
ゆるさなッ♥
あぁあぁあッ♥

そして…

すぃ
ちゅ

ん"ん"ーーー♥♥

ビクビク

私が達するのと
同時に射精されて
しまった

ぴゅるるるる

ゾクゾク

あぁ…あぁ…♥

強烈な恍惚感…
それと共に
喪失感もあった…

私は博麗の巫女…
幻想郷の護り手
それに必要な力を
与えられていた

正直面倒な役目だったし
生まれ持った力
ではあったけれど…

『自分は強い』
という自負はあった…

だが…その私も
こうなれば
『ただの』か弱い娘だった

博麗の巫女とはいえ
やはり身体は
年相応の少女で

男の『それ』が
もたらす快楽には
抗えなかったのだ…

その後……男は
振動する張り形で
私の性器に蓋をした

ガクガク

んん…♥
うぐぅ…♥

長時間
終わらない快感とともに
男の精が攪拌される

ヴヴヴヴヴ

その長い屈辱と快楽は
私の巫女としてのプライドを
完全に砕くのに十分であり…

ぶるぶる

とッ♥とめッ♥
ううううッ♥

最後には許しを請い
服従を誓わさせられた

ヴヴヴヴヴ

もぉッ♥
許してぇッ♥
ううッ♥

あなたのッ♥
愛人にッ♥
なりまずッ♥

ぶるぶる

ヴヴヴヴヴ

いつでもッ♥
犯しにきッ♥
いいがらッ♥

ガクガク

これッ♥もッ♥
勘弁ッ♥あッ♥
だめッ♥また♥
あぁぁぁぁイ♥ゲッ♥

んあぁぁぁあッ♥

ビクッ

ビクビクビクビク

こうして
私はこの男の
愛人になった

男は時々
私を抱きに
神社へやって来る

報復する事も出来たのに
拒まなかった…
それどころか
内心待ちわびていた

私は博麗という
システムに
縛られた巫女

心地よかった
『ただの弱い女』
になることで

博麗の重責…
その息苦しさを
束の間だけ忘れる事が
出来るのだから…

縛ら霊夢

END